

# 平成30年度 自己評価報告書

(文部科学省ガイドライン・専門学校等評価基準 Ver. 4.0 準拠版)

令和元年11月9日

大原和服専門学校

## 本書の使い方

1 本書は平成25年3月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」(以下、「ガイドライン」という。)に示された「項目別の自己評価表(例)イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表(イメージ案)」などを参考に全体を構成しました。

また、評価項目は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。)がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」を適用しています。

2 従来の「評価項目別取組状況」に「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」を加えることにより、ガイドラインに示されているPDCAを活用した自己評価を進めることができるようになっています。

3 ガイドラインでは、「項目別の自己評価表(例)イメージ」において取組状況を1から4の評語を用いて自己評定する様式を例示しています。このことから、本書でも「評価項目別取組状況」の小項目毎に評定欄を加えました。評語の考え方の例は、以下のとおりです。

### ※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

4 本書は、学校関係者評価を円滑に進めるために、記述のうち「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」など部分的にピックアップして評価を行うことができるように構成していますので、学校関係者評価実施においても活用できます。

※ご不明な点につきましては、機構事務局までお問い合わせください。

連絡先 03-3373-2914 info@hyouka.or.jp

# 教育目標と本年度の重点目標の評価

教育理念	教育目標
<p><b>大原和服専門学園の教育理念</b>  <b>「裁心縫と一生一貫を体現した物心両面にわたり豊かな人生を歩むことができる人材を育成する。」</b>  <b>裁心縫 “心で裁って 心で縫う”</b>            当学園の創始者大原マサ先生の言葉です。相手のことを思いやりながら、和裁をしようということです。この「裁縫」は技術のことで、染色、織物、図案、着付などでも同じことが言えます。            相手を思いやる心とは、“こうすれば喜んでくれるかな”“このままいけば相手は困ってしまうかな”など相手のことを想像する力のことです。言われたことだけをする受身の姿勢ではなく、社会から与えられた使命を感じながら前向きに取り組む姿勢の元となる心のあり方です。            実社会で頼られる人材になるためには、自分が前向きに歩んできた経験の蓄積を通してお客様のことを想像し、技術を使うことが必要です。  <b>“裁心縫”は、お客様の期待以上の感動を与えるプロになるための指針です。</b>  <b>一生一貫 “一生を一つの道を貫く 人から頼られる豊かな人生を歩んでほしい”</b>            現代社会は高度に分業化が進み、より高度な専門知識、専門技術と実践的な経験が必要になってきています。1つの道で努力し続けてきた経験の積み重ねが必要な時代になっています。つまりは継続することが大変重要になってきました。そのためには、志を持ち、絶えず謙虚に学び、努力と前向きに挑戦することが必要です。人から頼られる頼もしい人となり豊かな人生を生きるための真のプロフェッショナルになるための指針です。</p>	<p><b>大原和服専門学園の教育目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①思いやり・感謝の心を育てる</li> <li>②志を育てる</li> <li>③きっちりする責任感を育てる</li> <li>④一生懸命に取り組む姿勢を育てる</li> <li>⑤学習習慣を身につける</li> <li>⑥深く考える力・広い知識・高い技術力を身につける。</li> <li>⑦健康な体と健全な精神を維持するための規則正しい生活習慣を身に付けさせる。</li> <li>⑧時間とお金を大切にうまく活用できる力を身につける</li> </ol> <p>を掲げている。</p> <p><b>大原和服専門学園の教育方針</b></p> <p>全員教育・全員協力</p> <p>教員だけではなく職員もそれぞれの職分において教育を担っているという自覚を持ち、技術教育に加えて生活教育も踏まえて総合的に教育を行い、かつ連携することで相乗効果を上げていくことを目指している。</p> <p>また、学生間同志の教え合い風土を醸成し、全員で協力しながら教育していくことで、限られた修業年限と教職員数の中で最大の成長が実現できる学園づくりを目指している。</p>

平成30年度重点目標	重点目標：計画の達成状況	課題と解決の方策
<p>奈良県の指針に対する制度整備を重点目標にすすめており運営体制の強化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●理事会・評議員会の適切な運営。</li> <li>●法令に抵触しない学生数の維持（40名）</li> <li>●退学者5%以内の削減</li> <li>●関連分野への就職率90%以上</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職業実践専門課程の申請 <ul style="list-style-type: none"> <li>産業界と連携した実践的なカリキュラム</li> <li>学校関係者評価委員会</li> <li>教育課程編成委員会</li> <li>情報公開</li> <li>企業等と連携した教職員研修</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●私学法に抵触しない学生数の維持（40名） 平成30年度では44名となった。</li> <li>●退学者5%以内の削減 平成30年12名・27.2%となり達成できなかった。 今年度は、1年生の学習成果を上げるため授業の進め方など踏み込んで強化をしたが、様々な要因がからみ大幅な退学者がでる結果となってしまった。</li> <li>●関連分野への就職率 正社員就職率としては75.0%から91.7%となり、関連分野へ全員進路をとることができた。</li> <li>●職業実践専門課程の認定 平成31年3月15日の官報で告知され、和裁科・着物工芸科が職業実践専門課程の認定を受けた。</li> </ul>	<p>学生数の維持については、今後少子化がすすむため、様々な施策を講じる必要がある。</p> <p>学生募集（入口対策）・学習成果向上施策や退学者対策（教育内容・教育方法）・関連分野への就職（出口対策）などの総合的な取り組みと、18歳人口だけに頼らない幅広い層の教育の在り方を考えていく必要がある。社会人の受け入れる道を開くとともに、留学生の受け入れ等検討などしていく必要があると考える。</p> <p>関連分野への就職については、学生のニーズが多様化しておりそれに対応するためには、在学中の早期からのキャリア教育の充実や関連業界と企業臨地実習などを通して連携強化をはかる必要がある。</p> <p>事務局において様々な業務が増加しており、事務局の体制整備が必要である。</p> <p>また、専任教員確保の点から在学中から教育に関わる内容を盛り込み戦略的に育成していくことも必要である。</p>

### 3 評価項目別取組状況

# 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか。 <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか。 <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか。 <input type="checkbox"/> 理念などを実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか。	3	<p>教育理念を言語化し、それに沿った目的人材像を整備しつつあるが、教育理念・教育目標を踏まえた具体的な目標・計画・方法までは十分に定められていない。</p> <p>教職員には教育理念・教育目標を文書化した物を配布し共有を図っている。</p> <p>また、新入生には入学後1週間程度オリエンテーションを実施し、当学園で目指している育成人材像を配布し、意識付けを行う様になっている。</p>	<p>教育理念を言語化し、それに沿った目的人材像を整備しつつあるが、具体的な目標・計画・方法までは十分に定められていない。</p>	<p>教育理念や諸規則をまとめた学生便覧を作成し、教職員、学生、保護者等に浸透を図る必要がある。</p>	<p>理念を表した文書 自己評価報告書 学校案内 生徒手帳</p>

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
2 育成人材像は専門分野に関する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程（学科）毎に、関連業界が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程、授業計画（シyllabus）等の策定において、関連業界などからの協力を得ているか。	3	<p>各課程における人材要件については具体的にしておらず、不十分である。</p> <p>教育課程編成委員会を和裁・染織の両学科で開催し委員会での意見を踏まえ、授業の見直しを行っている。</p>	<p>業界内での当学園の卒業生の評価は高く、一定の評価を得ているが、全体として卒業進級の要件となる各課程における資格取得・知識・技術・人間性など人材要件が充分共有できる状態にはなっていない。</p>	<p>業界で必要とされる人材像をふまえて、各課程における資格取得・知識・技術・人間性など人材要件をより一層明確にする必要がある。</p>	<p>学園資料 学則 大原和服専門学園指導計画書作成に向けて</p>
3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか。	4	<p>産学協同システム、企業臨地実習等実践的なプロ教育をおこなっている。また、学生寮の共同生活も貴重な教育機会としてとらえ、社会性を養うために指導計画を定め運用している。</p> <p>また給食制度を採用し在学中の健康管理に留意し、食事と健康の大切さを在學生に教育するため外部委託することなく運営している。</p>	<p>着物染織科・着物工芸科の産学連携システムが未整備である。</p>	<p>着物染織科・着物工芸科は、アヤナスとの連携を深め、学生の費用負担の軽減と練習環境の整備を目指している。</p>	<p>学園案内 学園資料 振袖相談会チラシ</p>

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
<p>4 社会のニーズ等踏まえた将来構想を抱いているか</p>	<p><input type="checkbox"/>中期的（3～5年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか  <input type="checkbox"/>学校の将来構想を教職員に周知しているか  <input type="checkbox"/>学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか</p>	<p>2</p>	<p>単年度の経営計画を中心にすすめているが、業界の変化や学校を取り巻く環境の変化が加速しているため、中期的な将来構想を定めていく必要がある。  当学園の卒業生の活躍などにより、徐々にではあるが、求人・産学協同システムの依頼・研修・提携など幅広い内容で企業との関係が出来るようになりつつある。</p>	<p>文章等により中期的な将来構想を定めてない。</p>	<p>18歳人口の減少や市場変化などを踏まえた中期構想を定める必要がある。</p>	<p>事業計画書</p>



## 基準 2 学校運営

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
5 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は、理念等、目標、事業計画を踏まえて定めているか。 <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員などに周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか。	3	<p>事業計画の中に運営方針も含んで定めており、4月当初の新年度の辞令交付式にて全教職員に浸透を図っている。</p> <p>また、定期的に運営会議で進捗状況の確認などおこなっている。</p> <p>運営方針の組織内の浸透度は定期的な確認を充分にできていない。</p>	<p>運営方針の策定について年間スケジュールを定めておらず、そのため各教職員一人一人が運営方針の策定に関わることができていない。</p>	<p>各教職員が校務分掌にのっとり一人一人が運営方針の策定に関わることができるよう目標を設定し、持続可能な改善ができる運営体制を構築することが必要である。</p>	事業計画書
6 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標などを明示しているか。 <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制・業務分担などを明確にしているか。 <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	3	<p>中期・長期構想を定めておらず、単年度の事業計画ですすめている。</p> <p>事業計画と予算を作成し、理事会・評議員会で審議を経て実行している。</p> <p>校務分掌を作成し、責任者を明確にし、組織体制を整備している。</p> <p>事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容は、基本的に運営会議にておこなっている。</p>	<p>中期・長期構想を定めていない。</p>	<p>変化が加速しているため、単年度・中期・長期のそれぞれの視点での計画を策定する必要がある。</p> <p>事業計画の進捗の確認は運営会議等の議題として行い、年間スケジュールで定めおくことが必要である。</p>	事業計画書 校務分掌表 組織図

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
7 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	理事会・評議員会は奈良県の指針及び寄附行為に基づき適切に開催しており、議事録など審議内容については保管している。また法令にのっとり寄附行為の改正など適正に行っている。	特になし	特になし	理事会・評議員会議事録 寄附行為
8 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教職組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録等は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則、規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか <input type="checkbox"/> 学校の組織運営に関わる事務局職員の意欲及び資質向上への取り組みを行っているか	3	行政関係等の提出書類の作成など事務量が増加増大しており、事務局人員を増員できない中、課題がある。運営に関する規定・規則は定まっているものと定まっていないものがある。校務分掌により書記を定め、主だった会議については議事録を作成している。規則規程の改定は、適宜、関連する担当で協議し、学園長の承認のもと決定している。	事務局の人員を増員できない状況で課題がある。	事務作業の作業手順などわかりやすくし、校務分掌により事務作業を分散し対応していく必要がある。	各会議資料・議事録 寮運営規定 寮則 評価実施規程 組織図 校務分掌表

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
9 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	2	<p>一般職員はハローワークや関係者からの紹介などにより採用している。</p> <p>教員は当学園の卒業生を中心に採用している。</p> <p>給与支給の規程はあるが、経常赤字に陥っているため適切に運用できないでいる。</p> <p>昇任・昇給について各種資格等を取得した場合昇格している。</p>	和裁教員については、当学園の卒業生が基本であるため、適性のある教員を確保することが難しくなっている。	教員候補を確保するためにも在学中より教育に関わる内容を盛り込み、育成を図ることが必要である。そのため、平成30年度より特待生制度を制定し運用をしていく予定である。	給与規定 学生募集要項
10 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限などを明確にしているか	3	<p>理事会・評議員会による事業全体の意思決定及び組織図、校務分掌表にて役割を明確にしている。</p> <p>また決裁については稟議により承認をえる意思決定プロセスを整備している。</p>	特になし	特になし	寄附行為 組織図 校務分掌表

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
<p>11 情報システム化に取り組み、業務の効率化業務の効率化を図っているか</p>	<p><input type="checkbox"/> 学生に関する情報を適切に管理し、タイムリーな情報提供、情報を活用した学生指導が行われているか</p> <p><input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか</p> <p><input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか</p> <p><input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか</p>	<p>3</p>	<p>産学協同システムを運用するためのシステムは構築しており、実習に関する情報の管理は随時行っている。また、システム会社と保守契約を結び、システム上の不備があれば、適時対応しており、適切に管理されている。</p> <p>現在データを入力するとすぐに反映され最新情報がすぐに確認できようになっている。</p>	<p>産学協同システム以外の学生の情報は、紙の書類で把握するようになっている。</p>	<p>産学協同システム以外の学生の情報も網羅したシステムに改善していく必要がある。</p>	<p>システム会社との打ち合わせ資料</p>

## 基準3 教育活動

(記載責任者：酒井道子 蛭原香代子 城田愛子 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
12 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	3	職業実践専門課程認定を受け教育課程の編成方針、実施方針の文書化を行い対応している。 職業教育に関する方針は明確には定めていない。	職業教育に関する方針は明確には定めていない	当学園は、即戦力の技術教育を通じた全人教育を目指しており職業教育に関する方針を明確に定める必要がある。	教育課程編成委員会規程・位置付けに係る規程 教育課程編成の組織図
13 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか。 <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか	3	和裁学科の各学年の取得レベルは示されているが、学習到達レベルが低下してきており課題がある。 着物学科については学習到達レベルが文章などにより明確化されていない。 資格・免許の取得については、奨励しており、休日の教室開放等支援している。	和裁学科は、学習到達レベルの低下が課題である。 着物学科は、学習到達レベルの明確化が必要である。	学生気質の変化や教材環境の変化など要因があり、それぞれに対応した改善策を行う必要がある。学生気質の変化については特待生制度の整備や授業方法の改善、教員の研修等が必要である。教材に関してはアヤナスと連携しながら適切な教材確保に努めていく必要がある。 着物学科は、教育到達レベルを検討し、担任・講師と教育目標の認識の差が生じないような打ち合わせを行いながら、学習目標への到達に向けた学習方法の改善を継続しておこなう必要がある。	指導計画書 成績評価 成績表

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
<p>14 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか</p> <p><input type="checkbox"/>議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか</p> <p><input type="checkbox"/>授業科目の開設において、専門科目・一般科目を適切に配分しているか</p> <p><input type="checkbox"/>修了にかかる授業時数・単位数を明示しているか</p> <p><input type="checkbox"/>授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか</p> <p><input type="checkbox"/>授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等適切な授業形態を選択しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか</p> <p><input type="checkbox"/>職業実践教育の視点で、教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか</p> <p><input type="checkbox"/>授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか</p> <p><input type="checkbox"/>教育課程は定期的に見直し改定を行っているか。</p>	<p>3</p>	<p>・教育課程編成委員会を開催しており、編成体制など規程を定め、組織だった編成ができる体制を整備している。また、教育課程編成委員会は議事録を作成し編成過程を明確にしている。</p> <p>・各授業科目は授業計画・評価を作成して対応している。</p> <p>・授業等の工夫については、各教員・講師により対応しているが、改善が必要な点もあり不十分である。</p>	<p>・授業等の工夫については、各教員・講師により対応しているが、改善が必要な点もあり不十分である。</p>	<p>授業アンケート、学習成果状況、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会など外部から組織的に意見を聞く仕組みを定着させる必要がある。</p>	<p>学務部会議資料 教育課程編成委員会議事録 学園資料 教育課程編成表 学則</p>

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
15 教育課程について外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	教育課程編成委員会により業界の意見聴取を行っているが、在校生・卒業生・就職先等の関係者からの定期的な評価を受ける流れができていない。	在校生・卒業生・就職先等直接関係する関係者から教育課程について評価を受ける流れができていない	在校生には授業アンケート、卒業生・就職先には卒業後のアンケート調査を実施するなど定期的に意見を聴く流れを作る必要がある。	教育課程編成委員会名簿 教育課程編成委員会議事録 授業アンケート報告書 学校関係者評価報告書
16 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。 <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	2	授業評価が人員的な問題で行うことができていない。	授業評価が行えていない。	授業評価アンケートを授業の改善につなげる建設的な意見として、項目やとり方など検討する必要がある。	過去の授業評価資料 授業アンケート報告書
17 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の内容や基準を、学生等に明示しているか。 <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等や複数人で評価するなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか。	3	和裁学科は、取得点数は明示しており、産学連携推進室の担当教員が確認しているため標準化されている。技術習得内容については教員の裁量に委ねられている。	技術習得内容については教員の裁量に委ねられている。	複数の教員で提出された課題や実技試験を確認するなど日頃から客観性・統一性を確保できるよう取り組みが必要である。着物学科は、成績内容の明確化が課題である。	学則 学生成績表 教務調査書 成績評価基準 実習評価基準等 成績判定会議等資料 外部コンテスト実績

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
18 技術大会・コンクール・コンテストの出場に関する指導・支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 在校生の学習向上のため、技術大会、コンテストなど出場を奨励しているか。 <input type="checkbox"/> 技術大会、コンテストへ入賞するための指導體制は整備されているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金等の具体的な支援をおこなっているか <input type="checkbox"/> 技術大会・コンテストなど成績などの実績を把握しているか。	3	<p>在校生の学習向上のために、技術大会、コンテスト等の出場を奨励している。</p> <p>技術大会、コンテストへの入賞は本人の努力によるところが大きいですが、指導においても対策を行い入賞できるように指導をおこなっている。</p> <p>大会などへは、補助金なども活用しながらできるだけ参加負担が大きくなるように配慮している。</p> <p>技術大会・コンテスト等の成績は記録を残し把握している。</p>	<p>学生数の関係があり、各学年で出場することが難しくなり、学生間同志で大会や検定の合格に向けた練習のノウハウの伝達が難しくなりつつある。</p>	<p>大会や検定の意義の理解を高め、技能五輪・技能グランプリ等の見学などを低学年より行い意識を高めていくことが必要である。また、大会や検定までの指導計画も定めていく必要がある。</p>	<p>各種大会・コンクール資料</p> <p>校内掲示受賞者一覧</p>
19 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置付けているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にわかるようにしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関する授業科目や取得に向けての取組の流れなど明確にしているか。	3	<p>目標とする資格は、各学年で必須と推奨に分けて取得を目指している。</p> <p>国家検定などの受験に関しては学科と実技に分けて授業において時間を設定している。</p>	<p>検定・資格・免許について各学年における学習上の位置づけや意義などが、教職員間でも認識のずれが生じている。</p> <p>資格取得の学習についてはその時々調整でおこなっており、基本学生個人の自主勉強に重きをおいている。</p>	<p>年間の授業計画の中で、授業の流れと資格の関係を明示し、資格取得までの講義や練習計画を明確にする。</p> <p>各資格の取得目的や意義なども明文化し、学生に入学時や年度当初に各学年で説明し、それにのっとり授業をすすめるようにする。</p>	<p>学園資料</p>



小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
20 資格・免許取得の 指導体制はある か	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、 指導体制や学習支援の取組を 整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者等に対するフォー ロー体制を整備しているか	3	各学年の授業の中で取得に向 けた取り組みを行っている。 不合格者に対しては次年度に 再受験させ、練習に取り組み せている。また、学生の休日 でも教職員が出勤をしている 場合は、申請をすれば教室の 使用を認めており、練習でき る環境を整えている。	資格取得に向けては自 主練習が中心となっ ている。	成果をよりあげるた めには練習材料も含 めて計画的な練習が 必要である。資格取得 の練習計画を定める 必要がある。	校務分掌表 組織図
21 資格・免許取得率 の向上が図られ ているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する 目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水 準との比較などを行っている か。 <input type="checkbox"/> 指導方法などと合格実績と の関連性を確認し、指導方法 の改善を行っているか。	3	学科試験、実技試験があり、全 員合格することを目標にして いるが、現実的な目標設定は していない。 過年度の合格率、合格実績の分 析をおこなっておらず、指導方 法の改善について検討が十分 できていない。 技能検定試験の受験に際し受 験申込時の基準を設定するな ど具体的に取り組んでいる。	教員数が減少したこと により、検定対策ができ ないところもでてきて おり、それぞれの教員ま かせになっている。 資格・免許の取得率向上 は学生募集にも直結す るため早急な対策が必 要である。	各資格・免許について の担当を決め、全国 水準からの比較や過 去の合格率推移から 現状分析を行い、現実 に則した資格目標を 設定し、指導方法など の改善を行う必要が ある。	資格取得一覧 各検定受験案内

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
22 学校行事等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校行事の運営を全学的に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか	4	<p>入学式・卒業式に関しては行事会議をもって全教職員で役割を分担しながら対応している。9月におこなっている和祭は運営委員の負担が大きいことから平成31年度より全教職員が役割を分担し対応できるようにする予定である。また和祭では学生実行委員を定め体験ブースの人員配置・準備等主体的に取り組んでいる。</p>	特になし	特になし	入学式・卒業式資料 和祭資料
23 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するために必要な、能力、資質、技術等の経験を明確にしているか。 <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用に際して、計画的に確保できるように学生及び研究員の在籍時より計画的に育成を行っているか。	3	<p>明確にはしていないが、技術力、資格、経歴等を踏まえて教員・講師を採用するように心がけている。            専修学校の教員資格の条件を踏まえて、書類選考、面接を通して採用をしている。            教員の採用計画・配置計画はできておらず、退職者ができれば補充する形で採用している。</p>	専任教員の採用が難しくなっている。	学生の時から指導に関する能力を高める授業を導入して早期から育成に取り組む必要がある。また、特待生制度により将来指導者を志望する人材の確保と育成にも取り組む必要がある。	教員採用資料 履歴書 免許・資格関係書類 控え

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
24 教員の資質向上への取り組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、指導力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 教員の自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3	<p>研修計画を定め、奈専各連合会や関連団体が主催する研修会に参加するようにしている。</p>	<p>教職員の人員配置上、研修に出ることが難しくなってきている。</p>	<p>ベテラン教員と新人教員をペアにすることによりOGTにおいて育成をサポートすることが必要である。</p>	<p>教員研修の基本方針  教員研修等に係る規程  平成30年度研修計画</p>
25 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 必要な教員組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、明確に定めているか。 <input type="checkbox"/> 学科と教員・講師間で連携・協力体制を構築しているか。 <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取り組みがあるか	3	<p>専任・兼任講師を適宜配置し、教員組織は整備できている。教職員の校務分掌は定められており、業務分担・責任体制はなされている。</p> <p>授業内容・教育方法の改善には個々で取り組んでいるが、学務部リーダーと各担任とが定期的に打ち合わせをするなど組織的に取り組んでいる。</p> <p>校務分掌で定めている教員が、講師との連携・協力の役割を担っている</p>	<p>教職員数の減少に伴い校務分掌の重複が多くなってきており、講師間の連携が円滑に進んでいない場合がある。</p> <p>学務部での指導上の問題点の改善が個々になっている。</p>	<p>学務部内で指導上の問題点を共有し、組織的に改善に取り組む必要がある。</p>	<p>校務分掌表  学園資料</p>

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
<p>26 退学率の低減がはられているか</p>	<p><input type="checkbox"/>中途退学者の要因、傾向、各学年における退学者数などを把握しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>指導経過を記録するなど次に活かすことができるようにしているか</p> <p><input type="checkbox"/>中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。</p> <p><input type="checkbox"/>退学に結び付きやすい傾向の学生に対する、心理面、学習面での指導体制はあるか。</p> <p><input type="checkbox"/>退学を考えていた学生が前向きに変わるなど、効果があった指導例を共有しているか。</p>	<p>2</p>	<p>退学者には退学届の提出を義務づけているため、教員の所見なども記入するようになっていたため把握している。</p> <p>担任・寮監による指導記録を作成保管している。</p> <p>学生の変化に気づいた教職員が担任に連絡するなど連携し退学の低減に取り組んでいる。</p> <p>また、入学動機が弱い学生には、入学オリエンテーションの強化やキャリア教育の充実など図っている。</p>	<p>学生の変化に早く気づき、適時相談できるよう教職員間の連携が充分にできていない。</p> <p>できない学生に対する指導支援が教職員の配置上難しく対応が充分にできていない。</p> <p>精神的な疾患を抱えた学生もいるために、教職員の対応力だけでは難しい場合がある。</p> <p>入学動機や個別能力、卒業後の進路が多様化しているため学生のモチベーションの維持向上が難しくなっている。</p>	<p>学生が退学する理由をより深く分析し、未然に防ぐ対策を講じるとともに、学生間の関わりを深めることで教職員ではカバーできない指導や悩みの相談に対応できるようにする必要がある。</p> <p>精神疾患を持つ学生に対応するため専門家との連携や教職員の研修など対応が必要である。</p>	<p>退学届 退学者データ</p>

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
27 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置付けを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> インターンシップ保険の加入など安全面の対応を行っているか	4	平成28年度より企業臨地実習に取り組んでいる。企業臨地実習の際の協定書、誓約書・日報・成績評価表等を定め企業と連絡・協議をしながら対応している。 学外実習の安全対応するため、危機管理マニュアルを策定した。 また企業臨地実習参加者には全員インターンシップ保険の加入を義務付けしている。	特になし	特になし	企業臨地実習資料

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
28 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校生活や学習面で悩んでいる学生に対して相談できる体制が整備されているか。 <input type="checkbox"/> 病気などため学校生活や学習面で問題を抱えている学生に対して、医療機関等と連携して対応できているか。	3	<p>担任が学習面や学校生活面で定期的な面談をおこなっている。</p> <p>精神的な病気をかかえている学生に対しては、医師の診断をふまえて指導をおこなうなど配慮して対応している</p>	特になし	特になし	
29 保護者との連携体制を構築しているか。	<input type="checkbox"/> 保護者に対して学校の教育活動や行事に関する情報提供を行っているか。 <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって保護者と適切に連携して場合によっては面談等おこなう対応しているか。 <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	3	<p>年度当初に学習予定及び費用などを保護者に送付しており、担任より定期的に学習状況の報告なども保護者に送付している。</p> <p>学校情報の発信はホームページにて記載するにとどまっている。</p> <p>修学上問題がある学生については、保護者と密に連絡をとり、必要があれば面談をおこなうなど対応している。</p> <p>緊急時の連絡先は教務調査書に記載しており把握している。</p>	保護者への情報提供は必要最低限の連絡にとどまっており、問題がある学生の保護者との連絡が中心となっている。	保護者への学園運営に関する情報提供を工夫しておこない、学生育成に対する協力体制を構築していくことも必要である。	保護者への送付文書

## 基準 4 多様な学生の受け入れ (記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
30 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談などに対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して必要があれば専門家等と連携して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を専門家などとも連携しながら適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 留学生受け入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 留学生の受け入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	<p>学園長が受け入れをすでに行っている専門学校や専門家の行政書士から情報を収集し、学園長を中心に学務部、寮と連携して、留学生への対応の把握や留学の手続きなどを行っている。</p> <p>現在は、既存の専門課程に入学を希望する留学生の受け入れを行っており、留学生向けの教育課程の編成には取り組んでいない。</p> <p>留学生向けには特に学園情報を積極的に発信しておらず、行政関係の海外向け学校紹介の登録及びHPで対応している。</p>	<p>留学生の受け入れには、卒業後の就職が課題で、技術を学んだにもかかわらず技術職での就職では就労ビザがないため、課題がある。</p>	<p>どのような職種が留学生に適切か、業界の企業の理解を得ながら模索する必要がある。</p>	<p>留学生学生募集要項</p> <p>留学生受け入れガイドブック</p> <p>留学生受け入れのための実践的ガイドブック</p>
31 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人が受講できるプログラムを提供しているか。	2	<p>専門課程の授業で公開授業として対応できる科目を公開講座として、科目履修生の受け入れを行っている。</p>	<p>一般の受講生に向けた学生募集の方法が定まっていない。</p>	<p>SNS等を利用して学生募集をしているが、科目履修用のHPをつくる、アヤナスと連携して店頭で告知するなどより踏み込んだ対策が必要である。</p>	

## 基準5 産業界との連携

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
32 職業教育を行うために産業界と連携しているか	<input type="checkbox"/> 実習の実施にあたって、教材の提供など関連業界等からの協力を得ているか  <input type="checkbox"/> 産業界と連携してセミナーや講座、イベントなど行っているか  <input type="checkbox"/> 人材育成の観点から積極的に産業界と連携して、特別講師の派遣やインターンシップの受け入れ、工房見学など協力を得ているか。  <input type="checkbox"/> 産業界と連携するために業界が主催する会合等に参加するなど意識的に関係性を深める活動をおこなっているか  <input type="checkbox"/> 産業界と連携して最新の業界動向などを学生の指導にタイムリーに反映できるようにしているか	4	<p>当学園では和裁学科の実習教材を産学協同システムとして産業界の協力をえておこなっている。平成30年度には、京都染織青年団体協議会より着物染織科の学生に対して25反の白生地を提供を得た。</p> <p>当学園も実行委員に入っているきもの未来協議会主催きもの未来塾において和裁の講師を派遣するなど協力している。また、希望があれば社員研修などの受け入れもおこなっている。</p> <p>また、和裁組合の協力を得て、1級技能士フォローアップ研修を奈良で開催するなどおこなっている。</p> <p>最近では、企業臨地実習等や工房見学、授業協力などでも協力を得ている。</p> <p>和裁組合や業界関係のイベントなどにも可能な限り参加しており、学校の認知を上げるように活動をしている。</p> <p>当学園では産学協同システム・実践的な実務家教員・業界への進路活動など様々な面で教職員が業界の動きを把握できるため、タイムリーに指導に反映できるようにしている。</p>	<p>着物学科の産学協同システムが未整備である。</p>	<p>アヤナスとの連携を強化し、着物学科の産学協同システムの整備を進める必要がある。</p>	<p>きもの未来塾 案内文 企業臨地実習協定書</p>



## 基準 6 就職・進路 (記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	改定チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
33 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> 学生が将来の仕事を考える機会としてキャリア教育を実施しているか  <input type="checkbox"/> キャリア教育が効果的か見直しや改善を行っているか。	3	<p>キャリア教育は、最終学年の学生を対象として定型の講義に加え、全学生対象の卒業生との交流会を年1回実施しており進路決定の参考にする機会にし、その後は個別指導で対応している。</p> <p>また希望者が参加できる放課後企業講演会を行い、1年生より実社会の状況を把握できるようにしている。</p> <p>平成28年度より企業臨地実習を導入し、キャリア教育に効果的であるため、より充実させていく予定である。</p>	<p>企業臨地実習の受け入れ企業が不十分である。</p>	<p>学生の要望に対応できるように地域と職種を広げ、企業臨地実習の受け入れ企業を整備していく必要がある。</p>	<p>企業臨地実習評価表 企業臨地実習レポート 進路指導関係資料</p>
34 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職・フリーランス等進路決定率に関する目標はあるか。 <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界などへの就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 企業などと共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関して関連業界などと連携しているか  <input type="checkbox"/> 就職率や就職先等のデ	3	<p>就職率に関する目標設定は、90%以上の確保を最低の基準としてとらえ、卒業生全員の関連業界への就職をめざしており、担任・就職担当との就職活動等の情報の共有と各立場により助言などなされているため、90%前後の専門分野での就職進路率の決定がなされている。</p> <p>平成29年度より学校関係者評価委員会の提言により独立開業をした卒業生も就職率に含むこととしている。</p> <p>また、年数回、企業の希望により放課後に企業講演会も開催している。</p> <p>着物専門学校が全国的に減少している中、当学園は和装業界のハローワークになること</p>	<p>職業の多様化、学生気質の変化や学生の要望の多様化もあり、学生の進路希望が着物業界を超えておき難くなっている。</p> <p>独立開業のサポート体制が未整備である。</p>	<p>着物の技術を活用できる業種を開拓し、今まで以上に幅広く進路指導できるように他業種の企業訪問や研究をおこない、把握していく必要がある。</p> <p>技能士会を開業支援に特化したサポート内容を充実させ、独立開業を支援できる体制を整備する必要がある。</p>	<p>就職活動参加願 就職活動参加証明書 放課後企業講演会報告書 進路関係各種書類</p>

	一タについて管理し把握できるようにしているか		を目指しており、在校生の就職進路の斡旋に加えて卒業生の転職の斡旋も手掛けている。		ある。	
35 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業等を訪問するなどして卒業後の実態や受け入れ企業の評価等を把握しているか  <input type="checkbox"/> フリーランスで関連分野に関わっている卒業生の活動や評価を把握しているか	3	<p>就職担当者が適宜就職先企業との意見交換や訪問等により把握はしているが、不十分である。</p> <p>現在は、奈良県を中心に学園に近い立地である卒業生の動向はある程度把握しているが、不十分である。</p>	<p>卒業生が評価されている技術や知識や取り組み姿勢など全体的な意見聴取や評価を行うまでには至っていない。</p> <p>開業している卒業生との関係性を深めるための講習会等学園を訪問してもらうための機会が不十分である。</p>	<p>卒業生の評価される点を把握することは、学園の授業内容を見直すことにもつながるため、アンケートなどにより必ず把握できるように流れを整備する必要がある。技能士会活動を活発にすることで、コミュニケーションを今まで以上に深めることが必要である。</p>	卒業生名簿
36 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職等進路支援のための体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任と就職担当が連携し学生情報を共有し成果が上がるように協力しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携をしているか <input type="checkbox"/> 就職説明会を開催し、履	4	<p>校務分掌にて担当者を決めており就職担当者と担任とが連携しながら学生と個別相談で進路指導を行い就職支援を行っている。</p> <p>就職活動が公欠となる制度も整備しており参加願いと証明書の提出を義務付けしているため学生の就職活動状況は把握できる体制となっている。</p> <p>2年次に就職に関するキャリア教育をおこない、放課後企業講演会など様々な企業と連携してキャリア教育を行っている。</p>	特になし	特になし	<p>校務分奏表</p> <p>就職活動参加願</p> <p>就職活動参加証明書</p> <p>企業臨地実習協定書</p> <p>放課後企業講演会報告書</p>

	<p>履歴の書き方、面接の受け方など、具体的な就職活動に関するセミナー・講座を開講しているか</p> <p><input type="checkbox"/>就職に関する個別相談に適切に対応しているか</p>		<p>就職に関する個別相談は適切に対応している。</p>			
<p>37</p> <p>開業を目指す学生に対する支援体制を整備しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>独立開業等を目指す学生のために卒業後技術向上を目指すことができる環境を整備しているか</p>	3	<p>卒業後、和裁技術を高めたい卒業生に対しては研究員制度があり対応している。また一定条件をクリアすれば在宅で行うことができる外注委託加工契約も行っている。</p>	<p>開業するためには、技術以外で様々なスキルが必要であるため、その対応が不十分である。</p>	<p>技能士会を開業支援に特化したサポート内容を充実させ、独立開業を支援できる体制を整備する必要がある。</p>	<p>研究員・委託加工契約案内文 委託加工契約書</p>

## 基準 7 学生支援

(記載責任者：平瀬忠雄・森田智子 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参照資料
38 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 様々な外部の経済的支援制度の利用について、学生・保護者に情報提供し相談等対応しているか。	4	<p>主に日本学生支援機構の奨学金で対応しており、平成31年度入学生より経済的な要件による授業料軽減支援制度と特待生制度で学費減免をおこない対応している。</p> <p>いずれも学生募集要項で告知し案内している。</p> <p>大規模災害発生時等に関しては、当該地域の出身の学生には被災状況を確認し、必要があれば日本学生支援機構の緊急採用を案内している。</p> <p>学費は全納分納を選択できるようにしている。</p> <p>教材費の負担軽減のため、和裁学科では産学協同システムを整備しているが、着物学科では未整備のため課題がある。</p>	<p>教材費負担軽減のための産学協同システムが、着物学科では未整備のため課題がある。</p>	<p>アヤナスとの連携を強化し、着物学科での産学協同システムの整備を進める必要がある。</p>	<p>分割納付書類 学生募集要項</p>
39 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者への再検診について適切に対応してい	4	<p>平成28年度に学校保健計画を定めており実施している。</p> <p>学園周辺の病院を把握し、事務局及び寮監が症状に合わせて学生には適宜案内している。</p> <p>保健室を配置しており、気分がすぐれない学生は事務局に申し出をし、使用できるようにしている。毎年5</p>	<p>心の病気を抱えている学生が一定数入学してきており、対応が必要である。</p>	<p>心の病気を抱えている学生に対しては、保護者や専門家との連携が必要である。</p>	<p>学校保健計画 寮日誌 専門学校各種学校学生・生徒災害傷害保険 保険請求書</p>

	<p>るか</p> <p><input type="checkbox"/>健康に関する啓発及び教育を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/>心身の健康相談に対応し、不調のある学生に対して近隣の医療機関の紹介や連携はあるか</p>		<p>月学生及び教職員向けの健康診断を実施しており、検査結果など事務局で保管している。</p> <p>健康上問題がある学生は再検診を伝えており、再検診の結果も把握するようにしている。</p> <p>学校では健康に関する啓発及び教育は特に行っていないが、退寮時における一人暮らしにおける生活指導、食事の指導、学生寮では寮監より生活指導をおこなっている。</p> <p>特に心の病気を抱えている学生に対しては、専門家との連携が必要である。</p>		<p>控え</p> <p>医務室使用記録ノート</p> <p>健康診断結果報告書</p> <p>奈良県からの健康に関する公文書</p>	
<p>40</p> <p>学生寮の設置や学校給食などの生活環境支援体制を整備しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>遠隔地から修学する学生のために寮を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>学生寮の管理体制、生活指導体制等は明確になっているか。</p> <p><input type="checkbox"/>学生寮の数、利用人数、充足状況は明確になっているか。</p> <p><input type="checkbox"/>学生寮の運営方法などを、学生等・学内の意見をふまえて適宜、運営方法の見直しや規則の改定を行っているか</p>	<p>(寮)</p> <p>3</p> <p>(給食)</p> <p>4</p>	<p>学園の近隣に、学生専用の三確寮を設置しており対応している。</p> <p>学生寮には寮監がおり、寮規則にのっとり毎年度寮長、副寮長など寮運営体制を決め、入寮生全員が役割を持ち運営している。</p> <p>生活指導については、2年生が新生のお世話係になり生活指導や助言を行っており、3・4年生は取りまとめ役として対応している。また、定期的に寮会議をおこない問題などを共有しながら運営をおこなっている。</p> <p>また、セコム(株)と契約し防犯カメラ</p>	<p>建物が老朽化しており整備しなければならない箇所が増えている中、学生生活に支障がないように適宜、整備しているが、学生ニーズに対応できていないところもあり、入寮生数が減少しており課題である。</p> <p>教育寮として学生間同志の関わり合いの中で社会性を養うことを目指しているが、学生がプライバシーを大切にする風潮が強くなる中、教育寮としての寮運営の有り</p>	<p>平成28年度より入寮生の人数に応じて部屋のリフォームを順次おこなっている。これからも中期的に寮の整備計画を策定予定である。</p> <p>寮生の意見も踏まえながら、当番の有り方を見直し、寮生の負担軽減をはかるとともに、部屋割りの有り方も、プライバシーと共同のバランスを考え</p>	<p>寮則</p> <p>学生寮指導計画書</p> <p>寮長会議議事録</p> <p>寮生名簿</p> <p>メニュー表</p> <p>一人暮らし向け生活に関する案内</p>

	<p>□適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図るため栄養管理をしているか。</p> <p>□日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養うための食事に関する指導を行っているか。</p> <p>□アレルギーなどの学生に対して配慮した給食を提供しているか。</p> <p>□食べ残しなどを軽減するために適宜、提供する給食のメニューなど見直しを行っているか。</p>	<p>三台、緊急連絡用スイッチボタン等を設置し女子寮としての防犯対策を講じている。</p> <p>毎年、前期後期で部屋替えを行い、その都度、寮の充足状況を把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳から69歳までの生活活動強度のやや弱い女子を基準にカロリー計算を行い健康保持を図っている。</li> <li>・入学時に一人暮らしの新入生に関しては一人暮らしの食生活についての指導は行っているが、寮生については特に指導は行っていない。</li> <li>・アレルギーに関しては、医師の診断書を提出すれば特別食の対応を行っているが、現在該当者はいない。</li> <li>・嫌いなものを無理に食べさせることはしていない、嫌いなものも少し食べるように言葉がけをし、どうしても食べることができない場合は、手をつける前に共有の皿に出し、食べたい学生が食べることができるように配慮している。学生が好きではないメニューは新しいものに変え、デザートなどもできるだけ充実したい。</li> </ul>	<p>方を見直しをする必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にアンケートをとって学生の意見を考慮する必要があるが、できていない。</li> </ul>	<p>た見直しを行う必要がある。</p> <p>学生の希望や好き嫌いなどを把握し、メニューの見直しを今まで以上にこまめに行うことで、少しでも有意義な給食の時間を過ごしてもらいたい。</p>	
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	--

## 基準 8 卒業生支援・連携

(記載責任者：吉田季世子 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参照資料
4 1 卒業生への 支援体制を 整備してい るか	<input type="checkbox"/> 卒業生組織を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に学園行事の案内等学園の教育活動についての情報提供をおこなっているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談等に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座や相談をおこなっているか <input type="checkbox"/> 卒業生に対して関連業界・職能団体等と連携して研修等の情報提供を行っているか。 <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか。 <input type="checkbox"/> 卒業生に対して着物や伝統文化等の啓蒙活動などに協力をえるように働きかけをおこなっているか	3	<p>卒業生が入会する園友会を組織し、会報誌「やえさくら」を年1回発行をおこない、卒業生・学園の活動状況や中途採用求人等知らせている。</p> <p>また、学園のホームページやSNSを活用し公開講座等の案内を行っている。</p> <p>個別で再就職支援や、和裁委託加工契約を結び仕事の斡旋も行っている。要望があれば技術指導もおこない、学園施設や備品の貸し出しも行っている。</p> <p>卒業生から同窓会での学園への訪問希望があれば積極的に受け入れをしている。</p> <p>奈良県在住の卒業生のマイスター登録をすすめており、県内での着物技術の啓蒙活動にも協力してもらえるようにすすめている。</p>	<p>・園友会活動や卒業生支援等、学園内の教職員で行うには人力的に難しくなっている。</p> <p>・技術指導を個別申込で対応しているが、技術講習会についても和裁を継続している卒業生も少なく、講習会を取りやめている状況である。</p> <p>就職している卒業生が増えているため、講習会内容の見直しなど必要である。</p>	<p>講習会の内容については、卒業生向けのアンケートを実施するなどニーズを知ることから始め、講習会の内容を検討していく必要がある。また、学園の授業開放や関連する団体の研修の紹介等無理なくできる所からおこなうことも必要である。</p> <p>今後は、卒業生の協力を得て活動を活発にしていく必要がある。まずは、県内在中のマイスター登録できる卒業生協力者のリストを作り、学園と卒業生が協力して小中学校へのものづくり体験などの活動を行うことから活性化をはかりたいと考えている。また、今は休止している技能士会を、開業をする卒業生の支援に特化した内容にあたらめ再度スタートさせていきたいと考えている。</p> <p>また、今まで以上に学園の卒業生使用について告知する必要がある。</p>	<p>会報誌「やえさくら」</p> <p>園友会名簿</p>

# 基準 9 施設・設備

(記載責任者：平瀬忠雄 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参照資料
42 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか。	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機械類等は設置基準、関係法令に適合しているか。 <input type="checkbox"/> 図書室を整備し、図書は専門分野に応じ充実しているか。 <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか。 <input type="checkbox"/> 施設設備のバリアフリー化に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか。 <input type="checkbox"/> 施設・設備等の点検、補修等のついて適切に対応しているか。 <input type="checkbox"/> 施設の改築・改修等設備の更新計画を定め、適切に実施しているか。	3	<p>学園の実習に使用する施設・設備はプロが使用するものと同水準のもので充実している。</p> <p>図書室はあるが、十分に活用されていない状況である。また着物図案の図書は実習室に常時閲覧出来る様にしている。</p> <p>学生の休憩・食事のためのスペースは一階の食堂を利用している。</p> <p>施設内は実習教室がほとんどの為バリアフリーであるが、施設内の玄関や階段などはバリアフリー化に対応できていない状況である。</p> <p>3階トイレや1階の食堂に手洗い設備があり対応している。</p> <p>設備等については適時の補修となっており、支障のないよう対応しているが、中長期的な設備施設の補修計画が策定できていない。</p>	<p>図書室の運用を再度見直し、現在の体制でも管理に問題がないよう、充実を図りたい。</p> <p>外部から学園に入るときバリアフリー化はなされていない。</p> <p>建物などはその都度の補修となっており、中長期的な設備施設の補修計画がない。</p>	<p>本校舎を含めて建物全体の老朽化がすすんでいるため中期的な視点での補修計画を定める必要がある。</p>	<p>校舎配置図</p> <p>学校案内</p> <p>学園資料</p>



小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参考資料
<p>4 3 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか。</p>	<p>□学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動マニュアルを整備しているか。 □施設・設備等の耐震化に対応しているか。 □消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか。 □防災（消防）訓練を定期的に行い、記録を保存しているか。 □備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか。 □教職員・学生に防災研修・教育を行っているか。</p>	3	<p>平成 28 年度より消防計画を新たに作成し実施している。出来る限り施設・設備の耐震化をすすめているが予算の制約の中、対応が十分とはいえない箇所がある。 消防署の定期的な立ち入り検査などで指摘された箇所の改修及び点検を適時行っている。 消防訓練計画通知書を消防署に提出しており、6 月に寮生、12 月に学校にて消防訓練を実施している。 消火器、誘導灯、消火栓の点検や教職員・学生には避難訓練、消火器設備の使用訓練、</p>	<p>予算の制約があり、設備の改修が遅れている箇所がある。 防災訓練などの記録の保存を継続して行う。</p>	<p>限られた予算の中、建物の改修等計画的に進める必要がある。</p>	<p>避難経路図 自衛消防隊・消防訓練当日スケジュール 消防設備点検スケジュール 消防設備の整備などの履歴や見積もり・領収書関係 消防訓練計画通知書 消火器・DVD 借用本数申込書</p>
<p>4 4 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。</p>	<p>■学校安全計画を策定しているか。 ■学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか。 □ベンジン等の危険物の管理において、取扱いや管理など適切に対応しているか。</p>	4	<p>DVD 視聴、避難袋を使った避難訓練を実施し、指導を行っている。 学校安全計画及び学校安全計画を作成している。 全学生が専修学校各種学校学生生徒災害傷害保険に加入しており、授業中・放課後・実習中に発生した事故に対応している。</p>			

		<p>セコム(株)と提携し、校舎及び学生寮に防犯設備を設置している。</p> <p>また学校には寮監と兼務している本校管理人が常駐しており、学生が怪我などした場合は学務部、事務局と連携しながら近隣病院に搬送するなど適時対応している。</p> <p>学内で使用する薬品などの管理は、管理倉庫を設置し適切に対応している。</p>			
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--

# 基準 10 学生の募集と受入れ

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
45 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する高校訪問やガイダンスへの参加などを実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの学校案内などを作成しているか。	3	費用対効果の点からガイダンス業者が主催する校内ガイダンスには出ていないが、奈良県専修学校各種学校連合会主催の奈良県高等学校等進路指導研究協議会の進路担当教員向け説明会や専門学校見学会に参加している。また、各高校から申し出がある県内進学を推進する高校内ガイダンスとして山辺高等学校に出席した。高校訪問は、入学者がいる高校への訪問や地域を絞って集中して高校訪問をおこなっている。	着物分野への進学者が減少する中、すべての活動の費用対効果が低下しており課題である。	高等学校の学生がほとんど知らない分野となってきたため従来型の情報提供では入学者確保が難しくなっている。今後は、服飾やデザインなど当学園への入学が見込まれる専門学科のある高校への適切な情報発信と学園の理念や進路・資格取得などがわかり、教育活動の状況を盛り込んだ教員向けレポートを作成し、送付するなど個々の高等学校とより踏み込んだ取り組みが必要である。	学園案内 学園資料 学生募集要項

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
<p>46 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか</p>	<p>□入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか</p> <p>□専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか</p> <p>□志願者などからの入学相談に適切に対応しているか</p> <p>□学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果などについて正確にわかりやすく紹介しているか</p> <p>□広報活動・学生募集活動において、情報管理などのチェック体制を整備しているか。</p> <p>□体験入学・オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか</p> <p>□志願者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れているか</p> <p>□進学媒体等の効果を把握し、効果的に進学媒体等の見直しを行っているか</p>	<p>4</p>	<p>専修学校団体の自主規制に即した時期に出願を受付けており適切に対応している。</p> <p>奈良県専修学校各種学校連合会が指定している様式の願書を使用し、大阪府専修学校各種学校連合会が示したA0入試の指針に即した募集活動を行っている。</p> <p>入学相談は、フリーダイヤルによる電話・メール・進学イベント時での個別相談などで適宜対応している。</p> <p>今年度パンフレットを学園内で製作し、複数に分かれていた冊子を一冊にし、外部に発注することなく学園内で製作できるようになり、費用の削減と情報内容の改定がスムーズに行えるようになった。</p> <p>全国から入学している当学園の特性を踏まえ全国学園説明会・体験入学会・個別見学を行い可能な限り参加機会を設けて対応している。</p> <p>現在、一般入試に加えて平成26年度よりA0入試を開始し、平成31年度入学生より特待生制度や経済的な要件による授業料軽減支援制度を導入している。費用のかかる進学媒体などについては適宜見直しをしている。</p>	<p>全国的に着物分野への志願者数が減少を続けており、費用対効果がすべてにおいて低下しており課題である。</p>	<p>従来の媒体などでは費用対効果が年々悪化しているために学園独自のHPの充実は不可欠である。</p> <p>また、業界との協力体制を構築し、奨学金制度や就職提携などを行い、学園独自のシステムを構築し、他校との差別化をより一層図ることも必要である。</p> <p>また、今後は国内の少子化に対応するため、日本文化に興味のある留学生の受け入れも積極的に検討していく必要があると思われる。</p>	<p>学生募集要項 学校案内 学園資料 ホームページ 全国高等学校長協会家庭部会の要望書</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
47 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 教育理念に基づいたアドミッションポリシーを定め、入学要件・方法を明確にしているか <input type="checkbox"/> 入学選考は、公平性を確保するための合否判定体制を整備し、適切に運用しているか。	3	<p>入学選考は学務部リーダー及び学園長により、書類選考でおこなっている。定員に満たないこともあり入学選考基準を明確には定めていないが、欠席日数、病歴などについては確認をしており、入学後の指導のための把握にとどめている。</p>	<p>明確な選考基準や運用方法を定めていない。</p>	<p>入学に際しての必要な能力の基準を過去の受け入れ学生の実績を踏まえて入学選考基準や運用方法を検討する必要がある。まずは、特待生制度を実施するに当たり、実技試験・適性試験・筆記試験面談を行うことで具体的な選考基準を作成する予定である。</p>	<p>学生募集要項</p>
48 入学選考に関する実績を把握し、授業改善などに活用しているか。	<input type="checkbox"/> 学科毎の学生募集を示すデータを蓄積し、学生募集活動に活かしているか <input type="checkbox"/> 学科毎の応募者数・入学者数の予測値を測り、財務などの予算計画に活かしているか	3	<p>学科ごとの出願名簿を保管しており、合格者数推移なども管理している。</p> <p>入学者の傾向は、入学者のヒアリングやアンケートをとって把握しており、学務部との連携も行って学生情報の共有をおこなっている。</p> <p>資料請求数や体験入学会等の進学イベントの参加数などデータを蓄積しており、入学者予測値を出している。</p> <p>10月初期の出願者数より算出した入学者予測を予算計画に反映している。</p>	<p>入学者傾向や学生募集活動に関する推移は把握しているが、学生募集活動のより踏み込んだ改善まで活用しきれていない。</p>	<p>各媒体の掲載においてより踏み込んだ細かな出稿内容や原稿内容の検討など行う必要がある。</p>	<p>広報資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出願者推移</li> <li>・接触者推移</li> <li>・資料請求者数推移</li> <li>・入学アンケート</li> </ul>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
49 入学辞退者に対し授業料等について適切な取扱いを行っているか	□文部科学省通知の主旨に基づき、入学辞退に対する授業料の返還の取り扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取り扱っているか。	4	入学辞退者に対する授業料の返還については、入学前であれば返還する旨を募集要項で明示している。	特になし	特になし	学生募集要項

# 基準 1 1 財 務

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
<p>50 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか</p>	<p>■応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか ■収入と支出のバランスがとれているか ■貸借対照表の翌年度繰り越消費収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ■消費収支計算書の当年度消費収入超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ■設備投資は過大になっていないか ■負債は返済可能な範囲で妥当な数値になっているか</p>	<p>2</p>	<p>在校生数の減少が長期的に続いており、収入の減少に対して支出を削減する状況が続いている。保有土地建物の売却による負債の削減及び固定費の削減を進めており一定の成果を上げている。負債の削減は平成10年度よりすすめており、平成10年度比約15%の金額まで削減している。設備投資は、現在の校舎の補修等で対応しているため過大にはなっていない。</p>	<p>バランスシートの健全化はすすめているが、今後は損益の改善が必要である。その解決には学生数の確保が最大の課題である。</p>	<p>専門課程の在校生数を増加させる施策の継続するとともに、現在行っている授業のうち公開講座として対応できるものは一般からも科目履修生を募集し多様な年齢層の学生を受け入れていくことが必要である。また、収益事業収入の維持をはかるため、仕立て収入に加えて、(株)ayanasuと連携した着物各科の誂え受注を強化し、着物学科の産学協同システムの整備を進める必要がある。</p>	<p>出願受付簿 出願関係書類 H31年度事業計画書 H31年度収支予算書</p>

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
<p>5 1 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか</p>	<p><input type="checkbox"/>最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）・財産目録・貸借対照表による財務分析を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/>最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか</p> <p><input type="checkbox"/>キャッシュフローの状況を示すデータはあるか</p> <p><input type="checkbox"/>教育研究費比率、人件費比率は適切な数値になっているか</p> <p><input type="checkbox"/>コスト管理を適切に行っているか</p> <p><input type="checkbox"/>収支の状況について自己評価をしているか</p> <p><input type="checkbox"/>改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか</p>	<p>3</p>	<p>顧問税理士から学園の財政状況に関して定期的に意見を聞き、事業計画等についても関係機関の意見等反映し計画している。</p> <p>キャッシュフローの状況は、資金収支計算書を決算時にまとめており、おおよそ把握している。</p> <p>学校法人会計の改正にともない、各活動ごとに対応した学校法人会計で把握するようにしている。</p> <p>また、支出についても複数の方法を検討するなど慎重に検討するようにしている。</p>	<p>支出の削減は進んでいるが、同時に収益が減少しているため、安定的な改善につながっていない。</p>	<p>着物業界が大きな構造変化が進んでいる中、事業環境を分析し、中長期的な視点に立った事業計画を策定し、収益が増加に転じる施策を実施する必要がある。</p>	<p>貸借対照表 消費収支計算書 資金収支計算書 H30 事業計画書</p>



小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
52 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に関して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	3	<p>単年度で予算編成をおこなっている。</p> <p>予算の編成は対前年度の決算実績を踏まえ、事業年度の計画数字を勘案しながら事務局・理事長を中心に顧問税理士の意見を聴取しながら編成している。</p>	<p>中長期的な観点での視点を勘案しておらず、単年度中心の編成となっている。</p>	<p>社会の変化が加速しているため戦略的な視点での事業計画を立案し、中期的な観点を勘案した予算編成が必要である。</p> <p>全教職員に対して事業計画を踏まえた行動目標を設定し運営会議などで進捗を確認する必要がある。</p>	<p>H30 年度事業計画書</p> <p>H30 年度収支予算書</p>
53 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	3	<p>新たな収益基盤を構築するため新規事業を執り行う場合など、計画通りの実績をあげることができない場合、予算と大きな乖離が生じている場合がある。</p> <p>毎年度終了後に適切な会計処理がなされているか監査をしておりチェック体制は整備されている。</p>	<p>新たな事業を執り行う場合などの予算編成の精度を高める必要がある。</p>	<p>各部門ごとに計画と目標を立てそれをふまえた予算編成をする必要があり、予算編成プロセスを明確にする必要がある。</p>	<p>H30 年度事業計画書</p> <p>H30 年度収支予算書</p> <p>監査報告書</p>
54 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等に報告しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	<p>監事は大学法人の理事経験者及び税理士が就任しており、監査を決算時に行っている。予算編成時における理事会にも監事同席の上、審議を行っている。</p> <p>監査時における改善意見に関しては報告書に記載し、適切に対応している。</p>	特になし	特になし	<p>監査報告書</p> <p>寄附行為</p>

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
55 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 公開が義務付けされている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	4	私立学校法に基づき、閲覧できるような財務帳票（財産目録・貸借対照表・収支計算書）や事業報告書・監事による監査報告書は作成している。平成27年度より職業実践専門課程の認定を受け、ホームページにおける情報公開に取り組んでいる。	特になし	特になし	財産目録 貸借対照表 収支計算書 事業報告書 監事による監査報告書 ホームページ情報公開ページ
56 適切に学納金等を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の水準は関連分野の他校の水準と比較するなど把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか。	4	学納金の水準は関連分野の他校との比較により学納金を算出している。学納金など徴収する金額はすべて学生募集要項に記載している。	特になし	特になし	学園資料 学生募集要項

## 基準 1 2 法令等の遵守

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
57 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	<input type="checkbox"/> 学校法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届などを適切におこなっているか。 <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規定などを整備し、適切に運用しているか。	3	法令上定められた諸届については適切に対応しており、学校運営に必要な法律上整備が必要な諸規定は適宜整備している。	諸規定は整備しているが、就業規則等見直しが必要な規定がある。	見直しが必要な規定については専門家の意見も聞きながら改定していく必要がある。	専修学校設置認可書 寄付行為変更届控 登記事項変更届控 学則変更届 就業規則 服務規程 育児介護規則 稟議及び会議取扱い規定 パートタイム就業規則 定年に関する規定 旅費規定 自動車運営規定 慶弔規定
58 学校が保管する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	<b>■</b> 個人情報保護に関する取扱い方針・規定を定め適切に運用しているか。 <b>■</b> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取り扱いに関し、規定に定め適切に運用しているか。 <b>■</b> 学校が開設したサイトの運用にあたって情報の漏えい等の防止策を講じているか。	3	個人情報保護方針を定め、入学時に入学生、保護者に配布している。 また学園広報に関しても入学時に写真使用など同意文書を配布し同意がない学生に関しては配慮するなどしており使用する学生写真や文章についても本人が特定できないよう配慮している。 電磁記録は取扱っているが規定	個人情報保護法が導入された時期は研修を行っていたが、新人研修では行っていない。 電磁記録の保管について規定を定めていない。 教職員と学生がラインを使用し連絡する場合があるの	電磁記録の取り扱いや、SNSの留意点など規定に定める必要がある。 また新規採用教職員及び講師より個人情報の取り扱いに関する研修を実施していく必要がある。	個人情報保護に関する合格者向け案内文 個人情報保護方針

	<p>■教職員・学生に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか。</p>	<p>は定めていない。 学校が開設したサイトの運用では、HTTPS を取得しており資料請求などの情報が漏えいしないように安全対策をおこなっている。また、資料請求者などの情報は管理場所を定め保管している。また閲覧できるパソコンは事務所局内の者に限定しており、また情報を保管しているパソコンはネットの接続をしていないなど漏えい防止と絶えず人がいる環境に設置している。</p>	<p>でSNSの使用に 関しての規定を検討する必要がある。</p>		
--	------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	--	--

## 基準 1 3 自己評価・学校関係者評価

(記載責任者：森田智子 2019.11.1)

小項目	改定チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
59 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規定などを整備し実施しているか。 <input type="checkbox"/> 実施にかかる組織体制を整備し、毎年度、定期的に全学で取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか。	4	学校評価の規程を策定しており、平成31年度内に学則に自己評価及び学校評価の規程を加え変更をする予定である。 全学的に自己評価に取り組み、自己評価報告書をもとに学校関係者評価委員会で審議をしている。 評価委員も業界団体、技能団体、高等学校等関係者、学識経験者、卒業生、保護者等学園の関係者を適切に選任している。	文部科学省ガイドラインに準拠した私立専門学校等評価研究機構のハンドブックを活用した評価項目であるため、当学園に合わない項目がある。	平成31年度中に、評価項目を見直し、当学園に合う評価項目に改定する。	自己点検・自己評価報告書 私立専門学校等評価研究機構ハンドブック 学校関係者評価委員会議事録 学校関係者評価報告書 ホームページ 情報公開ページ 学校関係者評価委員会規程 学校関係者評価委員会守秘義務規程
60 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか。	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規定などを整備し実施しているか。 <input type="checkbox"/> 実施のための組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 設置課程・学科の関連業界などから委員を適切に選任しているか。 <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 議事録を作成し、評価結果を報告書にとりまとめているか。	4	審議内容を自己評価は報告書としてまとめ、学校関係者評価委員会は議事録を作成しとりまとめ、最終の学校関係者評価報告書をHPにて公開している。 評価結果の優先順位を考え、すぐに取り組める内容については改善につなげている。			

## 基準 1 4 情報公開

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6 1 教育情報に関する 情報公開を 適切に行っ ているか。	<input type="checkbox"/> 自己評価の評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。 <input type="checkbox"/> 学校関係者評価の評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。 <input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員などの教育情報を積極的に公開しているか。	4	自己評価報告書・学校関係者評価報告書・財務情報及び職業実践専門課程認定学科の情報を HP にて広く公開している。 また、学園資料に学校の概要、教育内容、教職員などの教育情報を毎年更新し、最新の情報を掲載している。	特になし	特になし	学園案内 学園資料 ホームページ

# 基準 1 5 地域にひらかれた学校づくり

(記載責任者：大原敏敬 2019.11.1)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
<p>6 2 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</p>	<p><input type="checkbox"/>社会人の学び直し等雇用促進事業について取り組みをしているか</p> <p><input type="checkbox"/>学校施設・設備等を地域に開放しているか</p> <p><input type="checkbox"/>高等学校・中学校・小学校等が行うキャリア教育の実施に教員を派遣するなど積極的に協力・支援しているか</p> <p><input type="checkbox"/>学校の実習施設を活用し高等学校・中学校・小学校等の職業教育の実施に協力・支援しているか</p> <p><input type="checkbox"/>地域の受講者等を対象とした「公開講座」等を開講しているか</p> <p><input type="checkbox"/>地域において伝統工芸や伝統文化の振興に関わる活動を関連機関と連携して行っているか</p>	<p>4</p>	<p>職業実践専門課程の認定により社会人の学び直しを受け入れることができる体制の整備をすすめている。</p> <p>地域における学校認知を高めるために、国家技能検定和裁職種やきもの文化検定奈良会場の提供や自治会のイベントでの場所の提供など行っている。また、和祭において約600名弱の来場を迎えるなど地域での認知度の向上を図っている。</p> <p>奈良県職業能力開発協会による若年技能者人材育成支援等事業に協力して小中学校における体験授業や技能フェスティバルに参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の人向けに公開できる特別授業を公開講座として受講できるように平成30年度より開始した。</li> <li>・和装教育国民推進会議に参加しており、奈良県内での浴衣着付授業に参加しており、平成30年3月には京都染織青年団体協議会の依頼できもの和ッザニアを京都みやこめっせで開催するなど連携を密に行っている。</li> </ul>	<p>現在の教職員数では、地域に発信する活動にも限界があり課題がある。</p>	<p>関係する機関や卒業生などと連携を強化することで、活動の規模を縮小することなく様々な地域での活動が継続しておこなえる環境を整備する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県職業能力開発協会・若年技能者人材育成支援等事業資料</li> <li>・京都染織青年団体協議会事業報告書</li> <li>・和装教育国民推進会議活動報告書</li> <li>・和祭事業報告書</li> </ul>

小項目	改定チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
63 国際交流に取り組んでいるか	□国際交流のため、地域や業界団体・学校等から着物や伝統工芸に関する講習会などの受け入れを行っているか。	3	平成30年度に、サマースクールで訪日している中国の高校生の受け入れを行い、今後も継続する予定である。ほかにも要望があれば受け入れを行う予定である。	受入に関してプログラムをその都度調整しているため負担が大きい。	受け入れプログラム内容を定型化しできるだけ負担を軽減しながらおこなっていきたい。	受入プログラム資料
64 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	□地域や業界団体が実施する着物や伝統工芸に関するイベントを学生に紹介し、スタッフや協力者等で、主体的に参加できるようにしているか。	3	当学園では学習成果につなげるために着物関係のボランティア募集を学生に告知し、掲示板に掲示している。学生は自主的に着付け、技能振興、きもの啓蒙活動のボランティア活動に参加している。 学園が案内している技能振興活動等には交通費や食事代などの補助を出しており参加しやすい環境を整えている。	ボランティアや技能振興活動に参加をした場合に評価をしていない。	ボランティアや技能振興活動の参加を評価することで、このような活動に参加することによる学習成果を教職員が理解するとともに、さらに学生が自主的に参加しやすい環境をさらに整備する必要がある。	ボランティア募集告知文